



令和4年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

令和3年8月13日

上場会社名 株式会社 御園座
コード番号 9664 URL <http://misonoza.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務経理部長
四半期報告書提出予定日 令和3年8月13日
配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 名
TEL 052-222-8202

(百万円未満切捨て)

1. 令和4年3月期第1四半期の業績(令和3年4月1日～令和3年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
4年3月期第1四半期	663		174		174		22	
3年3月期第1四半期	4	99.3	52		50		200	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
4年3月期第1四半期	4.52	
3年3月期第1四半期	40.18	

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
4年3月期第1四半期	6,377		4,088			64.1
3年3月期	6,090		4,110			67.5

(参考)自己資本 4年3月期第1四半期 4,088百万円 3年3月期 4,110百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
3年3月期				0.00	0.00
4年3月期					
4年3月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和4年3月期の業績予想(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,500		270		280		220		44.18

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	4年3月期1Q	4,984,500 株	3年3月期	4,984,500 株
期末自己株式数	4年3月期1Q	5,144 株	3年3月期	5,124 株
期中平均株式数(四半期累計)	4年3月期1Q	4,979,366 株	3年3月期1Q	4,979,376 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計方針の変更)	6
3. その他	7
(継続企業の前提に関する重要事象等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続き、経済活動は停滞、雇用・所得環境、個人消費も依然として厳しい状況で推移いたしました。

当社におきましては、感染症拡大予防の徹底を図り、座席数の制限や客席・ロビーでの食事の禁止などの対策を継続し、その中で引き続きお客様の嗜好に合わせた公演の実現、観客動員の維持も図りながら、注意深く上演していくことが課題となりました。

今後につきましても、感染拡大の防止策を徹底し、社会経済活動のレベルが段階的に回復する中、まだ当面は厳しい状態が続くものと見込まれますが、徐々に公演数及び観客動員の拡大を図りながら、お客様に喜んで頂ける公演を増加させていく予定であります。

当社は、以下の通り、令和3年4月から6月までに上演予定であった全ての公演を4種類、上演日数として44日間、上演回数として63回の実施を致しました。

<当第1四半期累計期間の上演実施作品>

公演名	上演予定期間	上演予定日数	上演予定回数
市川海老蔵特別公演	4月10日～20日	11	15
ミュージカル『ウェイトレス』	4月29日～5月2日	4	5
ミュージカル『ゴヤ - GOYA-』	5月7日～9日	3	5
滝沢歌舞伎 ZERO 2021	6月2日～27日	26	38
合計		44	63

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は、6億6千3百万円（前年同期は4百万円）となりました。

利益面では、営業損失1億7千4百万円（前年同期は営業損失5千2百万円）、経常損失1億7千4百万円（前年同期は経常損失5千万円）、四半期純損失2千2百万円（前年同期は四半期純損失2億円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は、8億2百万円となり、前事業年度末に比べ3億5千2百万円の増加となりました。この主な要因は、売掛金が3億1千5百万円増加したことによるものであります。固定資産の残高は、55億7千4百万円となり、前事業年度末に比べ6千5百万円の減少となりました。この主な要因は、建物及び構築物が3千万円、機械及び装置が2千2百万円減少したことによるものであります。この結果、総資産は、63億7千7百万円となり、前事業年度末に比べ2億8千7百万円の増加となりました。

(負債の部)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は、7億8千4百万円となり、前事業年度末に比べ3億6千7百万円の増加となりました。この主な要因は、買掛金が3億8千2百万円増加、前受金が2千4百万円減少したことによるものであります。固定負債の残高は、15億4百万円となり、前事業年度末に比べ5千8百万円の減少となりました。この主な要因は、長期借入金が5千7百万円減少したことによるものであります。この結果、負債合計は、22億8千8百万円となり、前事業年度末に比べ3億9百万円の増加となりました。

(純資産の部)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、40億8千8百万円となり、前事業年度末に比べ2千2百万円の減少となりました。この主な要因は、利益剰余金が2千2百万円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和4年3月期の業績予想につきましては、当第1四半期累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点において令和3年5月14日付「令和3年3月期決算短信」にて発表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当第1四半期会計期間 (令和3年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	240,174	208,441
売掛金	46,449	361,503
貯蔵品	1,256	2,322
未収入金	90,334	192,565
その他	72,251	38,569
貸倒引当金	△739	△739
流動資産合計	449,729	802,663
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,577,042	2,546,680
機械及び装置（純額）	720,998	698,251
土地	2,124,656	2,124,656
その他	133,907	126,735
有形固定資産合計	5,556,605	5,496,323
無形固定資産	31,814	29,354
投資その他の資産		
投資有価証券	39,075	38,846
その他	13,108	10,168
投資その他の資産合計	52,183	49,015
固定資産合計	5,640,603	5,574,693
資産合計	6,090,332	6,377,357

(単位：千円)

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当第1四半期会計期間 (令和3年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	67,535	450,100
1年内返済予定の長期借入金	205,831	213,328
未払金	22,676	24,415
未払法人税等	7,033	5,360
前受金	99,280	75,246
賞与引当金	-	645
その他	14,406	15,578
流動負債合計	416,762	784,674
固定負債		
長期借入金	1,254,169	1,196,672
繰延税金負債	276,857	276,857
退職給付引当金	4,806	6,477
その他	26,882	24,228
固定負債合計	1,562,716	1,504,235
負債合計	1,979,478	2,288,910
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,271,937	2,271,937
資本剰余金	2,137,621	2,137,621
利益剰余金	△267,062	△289,561
自己株式	△39,674	△39,716
株主資本合計	4,102,823	4,080,281
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,031	8,165
評価・換算差額等合計	8,031	8,165
純資産合計	4,110,854	4,088,447
負債純資産合計	6,090,332	6,377,357

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年6月30日)
売上高	4,628	663,166
売上原価	897	673,060
売上総利益又は売上総損失(△)	3,731	△9,893
販売費及び一般管理費	55,879	164,307
営業損失(△)	△52,147	△174,201
営業外収益		
受取配当金	946	1,026
受取保険金	2,543	2,502
その他	4,436	1,087
営業外収益合計	7,926	4,616
営業外費用		
支払利息	4,616	4,225
その他	1,675	496
営業外費用合計	6,291	4,721
経常損失(△)	△50,512	△174,306
特別利益		
補助金収入	-	152,414
特別利益合計	-	152,414
特別損失		
公演中止損失	57,136	-
臨時休業等による損失	92,161	-
投資有価証券評価損	-	363
特別損失合計	149,298	363
税引前四半期純損失(△)	△199,810	△22,255
法人税、住民税及び事業税	244	244
法人税等合計	244	244
四半期純損失(△)	△200,055	△22,499

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期累計期間(自 令和2年4月1日 至 令和2年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 令和3年4月1日 至 令和3年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これによる当第1四半期累計期間の損益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響もありません。

(時価の算定に関する会計基準の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下、「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期財務諸表への影響はありません。

3. その他

(継続企業の前提に関する重要事象等)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束しなかったものの、当社は感染対策の徹底を図り、当第1四半期累計期間において予定していた公演を上演することが出来たことにより、当第1四半期累計期間の売上高は663百万円と、前期比大きく改善いたしました。しかしながら当第1四半期累計期間の営業損失及び四半期純損失を計上したことで、連続赤字となっており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が続いております。

しかしながら、6月下旬の緊急事態宣言解除を受け、感染対策を十分に行ったうえで公演を継続しております。また、当第1四半期会計期間末の現金及び預金の残高に加え、資金計画に基づき取引金融機関と協議を行い、適切に運転資金を確保する計画を実行しており、当該事象の解消が十分実現できるものと考えております。

以上の通り、重要事象等の解消は可能と考えており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」は記載しておりません。